

兵庫県におけるマダラテントウ類の分布について (兵庫県産甲虫相資料。78)

高橋 寿郎

マダラテントウ類 (Subfamily Epilachinae) に属する種は兵庫県下には3種1亜種 (トホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, コブオオニジュウヤホシテントウ) を産する。

これ等の県下の分布はまだ充分にわかっていない点が多くあるが一応現時点での分布状況に就いて述べて見たい。

本文をまとめるに当りコブオオニジュウヤホシテントウの兵庫県下産に就いて示唆を与え下さり、日頃から何かとお世話になっている神戸大学 奥谷禎一博士に厚くお礼を申しあげる。

1. *Epilachna admirabilis* Crotch トホシテントウ

産地: 川西市笹部 [30-V-1971, 6-V1-1971, 5-VIII-1972, 28-VII-1973, 仲田, 1978], 多可郡三谷 (1ex., 13-VII-1975), 神崎郡笠形山 (3 exs., 12-V1-1975), 大河内町川上 (2 exs., 15-VII-1977, 1ex., 6-VIII-1977), 宍粟郡福知溪谷 (1ex., 16-V1-1975, M. Yuma leg.), 波賀町音水 (2 exs., 13-VII-1958, 2 exs., 25-V1-1972, 5 exs., 16-VII-1972, 1ex., 3-V1-1973, 2 exs., 10-VIII-1975), 氷上郡神楽 [山本, 1958], 豊岡市伊賀谷 [16-VIII-1973, 高橋, 1975], 養父郡氷の山 (2 ♂, 25-VII-1955, 2 ♂, 27-VII-1956, 8 exs., 25-VII-1958) [30-VII-1973, 高橋, 1975], 美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻, 岸田, 1972] .

一見して他の3種とは区別出来る種である。一番南の産地は川西市笹部であり大体県中央部から北にかけているようであるが日本海側にいるかどうか調べられていない。オオニジュウヤホシテントウらの分布に良く似る。本種の生活史に就いて古く河野常盛氏のものがある (昆虫, 8巻, P. 138-152, Pl. III, 1934) 。

2. *Hemosepilachna vigintioctopunctata* (Fabricius) ニジュウヤホシテントウ

産地: 津名郡岩屋 (1ex., 25-IV-1959), 三原郡論鶴羽山 [1ex., VIII-1973, 宮武, 古木, 1974], 川西市大和 [3-VIII-1968, 17-VIII-1969, 仲田, 1970, 1978], 笹部 [27-

* 産地記録で [] の中のものは文献による記録, () の中のものは筆者の採集或は寄贈を受けた標本で現在筆者の手許に保管されているものである。

VII-1972, 仲田, 1978], 神戸市六甲山 [1V-1943, 中根, 1955], 鳥原 (1 ♂, 5-V-1938, 1 ♀, 12-V-1939, 3 ♂, 1 ♀, 27-V-1939, 1 ♀, 5-VII-1939, 3 ♂, 3 ♀, 10-VII-1939, 1 ♂, 3-V-1953, lex., 4-VII-1976, lex., 11-VII-1976), 藍那 (lex., 14-VI-1978, lex., 14-VII-1978), 山の街 (lex., 10-V-1959), 丹生山 (1 ♂, 2 ♀, 5-V-1956), 舞子 (1 ♀, 5-V-1939), 三木市内 (14 exs., 20-VII-1979, S. Ogura leg.), 加古川市内 (4 ♀, 16-VII-1951), 相生市三瀬山 (lex., 7-V-1972,), 出石郡出石町小人 [2-VIII-1963, 高橋, 1963], 養父郡針伏山 [22-VI-1973, 高橋, 1975], 美方郡扇ノ山 [辻, 岸田, 1972]。

本種はいわゆる瀬戸内海, 海岸線ぞいに広く多く産する種であり淡路島にも勿論分布している。かって安江安宣博士が日本海岸にも生息し加古川河口から京都由良川河口に致る低地帯においても分布しているとされた (分水嶺にあたる兵庫県氷上郡生郷村石負から由良川, 加古川両河口にいたるまでの諸地点 16 箇所 で本種がいたとある。具体的な地名が出ていないがこのあたりには分布しているようである, 1955, 1956)。加古川上流の多可郡あたりでは見出せなかったし、御覧のごとく日本海側の記録がほとんどないのは今後調査を要する地点である。また養父郡針伏山、美方郡扇ノ山の記録があるがこれも再調査しなければいけない。普通種ということで案外採集もされず記録も無いので県下の分布のよくわからない点が多い。

3. *Hemosepilachna vigintioctomaculata* (Motschulsky) オオニジュウヤホシテントウ

産地: 洲本市安平町 [2 exs., 7-VIII-1977, 堀田, 1978], 川西市笹部 [8-VII-1977, 仲田, 1978], 多可郡島羽 (lex., 5-VII-1975, lex., 19-VII-1975), 神崎郡大河内町川上 (5 exs., 18-VI-1977, 7 exs., 15-VII-1977, 9 exs., 17-IX-1977), 宍粟郡波賀町赤西 (lex., 10-V-1970), 音水 (lex., 13-VII-1958, 6 exs., 16-VII-1972), 氷上郡芦田村 (lex., 12-VIII-1952, Y. Yamamoto leg.), 佐治, 神楽, 竹田 [山本, 1958], 出石郡出石町広原 [29-VIII-1963, 高橋, 1963], 養父郡氷の山 (21 ♂, 11 ♀, 2-VIII-1953, 8 ♂, 10 ♀, 27-VII-1956, 11 exs., 25-VII-1958), 美方郡湯村 (1 ex., 27-VII-1952), 扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972; 10-VI-1973, 高橋, 1975]。

本種の分布はトホシテントウに良く似た傾向にある。やはり中央部から北に分布している種だと考へるのであるが川西市笹部には 3 種が全部混棲しているのは 1 つの特徴である。出石郡もニジュウヤホシテントウと本種の両方がいるようである。瀬戸内海に面した沿岸地域には勿論分布していないし割合中央部あたりまででないようである (筆者が発表した神戸市鳥原産は同定誤り

でニジュウヤホシテントウである、1958)。洲本市の記録があるのは非常に注目される。記録者の堀田久氏にお尋ねした所間違いなく本種であり島のナスの葉上で採集されたとのこと。淡路島にいたるとなると瀬戸内側にも可能性は充分にあるわけで再調査をする必要がある。堀田氏にも淡路での調査をお願いしてある。

3! *Hemosepilachna vigintioctomaculata pustulosa* Kono コブオオニジュウヤホシテントウ

産地： 神崎郡大河内町川上（9 exs., 7-V-1975, 5 exs., 18-V1-1977）。宍粟郡波賀町原（1 ex., 11-V-1979），赤西（6 exs., 10-V-1970, 2 exs., 9-IX-1978），音水（1 ex., 20-VII-1969, 1 ex., 3-V1-1973），坂ノ谷（10 exs., 9-V1-1973）。

神崎郡大河内町川上付近のアザミを食しているのはコブオオニジュウヤホシテントウであると奥谷博士から教示されて所有している標本全部に就いて一匹ずつ再検討してみた所大河内町川上産オオニジュウヤホシテントウの半分以上がコブオオニジュウヤホシテントウであることがわかった。不注意で夫々採集出来た場所を記録していないので食草についての観察が出来ていないのが残念である。安江安宣博士は“中国山脈におけるコブオオニジュウヤホシテントウと陸封性イワナ類の地理的分布の類似性”（日本応用動物昆虫学会中国支部報，第8号，1966）なる有益な報文を発表しておられる。兵庫県下におけるイワナの産地は矢田川、岸田川、千種川の上流ということであり（兵庫探検，1974）、本種を割合産する神崎郡大河内町川上付近は市川から別れた犬見川水系でここにはアマゴは産するがイワナは全くいない（大河内地点自然環境実態調査報告書，1978）のでやゝ状況は違っているようである。たゞこのあたりの積雪が2月平均で30 cm、最深積雪85 cmというような生野地点のそばであるから（兵庫県気象庁，1980）、小山長雄博士が云われた本種と1月の積雪量の多寡と相関があると云う説には合致するようである（1966）。宍粟郡波賀町の各産地は千種川上流になるので当然産することになるであろうが矢田川、岸田川の上流に当る美方郡、養父郡下各地には広く本種を分布していると考へられるので食草を含めてもっと調査をやらなければいけないと考へている（宍粟郡原での採集は笹の葉上であった）。

兵庫県下のマダラテントウ類の現時点での分布は大体以上のごとくである。各種の所で問題点に就いてはふれておいたが今迄の同定記録に就いてもやゝ不十分な点があるようで今一つ分布の傾向が非常に入り交ってはつきりしない点がある。今後これ等の穴埋めをより一層の調査によって肉付けしなくてはならないと考へている。同好の皆様方の御教示、御協力を切にお願いしたい。参考文献は大変多いので紙面の関係上省略させて頂いた。